

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	建設課	主管課長名	五十嵐 貴裕
5-3	施策名	道路網の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市内の道路  利用者が安全で快適に通行できる環境が整っている。	①市内道路延長(国道、県道、市道)	見込値	km		1,638	1,639	1,640	1,641	1,642	
実績値						1,631	1,631	1,631			
見込値											
						実績値					
見込値											
						実績値					
②道路未改良延長(一級・二級市道) ③市内の道路が安全だと感じる市民の割合 ④危険箇所数(通学路)		目標値	m			20,000	19,700	19,400	19,100	18,800	
						実績値	20,434	19,916	19,240		
		目標値	%				22.5	25.0	27.5	30.0	32.5
							実績値	20.8	21.1	21.8	
		目標値	箇所				56	55	54	53	52
							実績値	21	25	11	
目標値											
					実績値						

  

成果指標設定の考え方	○市内の道路交通については、①で幹線道路の改良が進んでいるか、②で市民が道路の安全性にどの程度満足しているか、③で危険箇所数で通学路の安全対策が進んでいるか、で把握する。
成果指標の把握方法と算定式等	○①道路未改良延長(一級・二級市道)は、国土交通省道路局の道路施設現況調査より求める。②市内の道路が安全だと感じる市民の割合は、市民アンケートより求める。③危険箇所数(通学路)は、通学路安全推進会議(通学路交通安全プログラム)より求める。

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、以前は20%台であったが、東日本大震災により落ち込み、そこから毎年の道路改良・補修の成果もあり、徐々に毎年回復し、ここ数年20%を超えるまで戻った。国庫交付金事業の通学路整備や橋梁長寿命化・定期点検事業、生活道路の改良を着実に進めており、素早い危険箇所の補修や維持作業が相まってそのような評価につながっていると考えられる。 ・道路未改良延長(一級・二級市道)については、平成30年度は19,916m、令和元年度は19,240mであり676m向上した。 ・危険箇所数(通学路)については、平成30年度は25箇所、令和元年度は11箇所であり14箇所減少した。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①道路未改良延長(一級・二級市道)については、幹線道路の改良を実施しており、着実に数値を伸ばしている。 ②市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、目標値には及ばなかったが、徐々に毎年向上している。 ③危険箇所数(通学路)については、道路補修の優先箇所として危険度を重視しているため、かなりの箇所数を対応した。評価については、危険箇所数(通学路)が目標値を大きく上回っているため、「一部の成果指標で目標値を上回った」と判断した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 ・「道路改良事業」により、市民がスムーズに快適に市内を移動できるように、新規路線の整備や既存の市道の拡幅、側溝整備などの改良を図った。 ・台風19号により、市内各所で市道が甚大な被害を受けたが、「自然災害対策・対応事業」により災害復旧を行ったが、中でも度重なり被害を受けているところは改良復旧を行い再度災害防止に努めた。 ・「上曾トンネル整備事業調整協議会事業」では、市道M2760号線(上曾トンネル)の整備について、今年度は関係機関の調整段階であったため、この事業により整備環境が整い、市道改良に貢献した。	道路利用者が安全で快適に通行できる環境を整えるため、市内の道路網の整備を図る。 昨年度に引き続き、市道の「道路改良事業」、「道路補修事業」に重点的に取り組み、合わせて本市と周辺地域間の交流の活性化等を促すため、本市と周辺地域間を結ぶ幹線道路の整備促進を国・県に働きかけていく事にも、力を入れて取り組んでいきたい。 また、昨年度策定した国土強靱化地域計画に基づき、道路網の整備にも防災・減災の考え方を反映させていきたい。